

令和2年度

国宝土偶講演会 &

山形県発掘調査速報会

日時 令和3年3月7日(日) 13:00~16:25

会場 山形県生涯学習センター遊学館 2階ホール

【主催】山形県

【共催】山形市教育委員会 上山市教育委員会 大石田町教育委員会
公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

(お願い) マスクの着用をお願いいたします。また、館内各所の消毒用スプレーによる
手・指の消毒や、こまめな手洗いをお願いいたします。

令和2年度国宝土偶講演会&山形県発掘調査速報会

主催 山形県

共催 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

日時 令和3年3月7日(日)13:00～

会場 山形県生涯学習センター『遊学館』

- 次第**
- 12:00 開 場
 - 13:00 開会あいさつ
 - 13:05 講演会 『「縄文の女神」の誕生について
～舟形町西ノ前遺跡の発掘調査を語る～ 』
(講師:(公財)山形県埋蔵文化財センター事務局長 黒坂雅人)
 - 14:05 質疑応答
 - 14:15 休憩
 - 14:30 令和2年度の県内の発掘調査の概要について
(山形県観光文化スポーツ部 文化振興・文化財課)
 - 14:45 報告① 史跡山形城跡
(山形市教育委員会)
 - 15:05 報告② 藤木遺跡
(上山市教育委員会)
 - 15:25 報告③ 駒籠楯跡
(大石田町教育委員会)
 - 15:45 報告④ 水林下遺跡
(山形県埋蔵文化財センター)
 - 16:05 報告⑤ 杉沢C遺跡
(山形県埋蔵文化財センター)
 - 16:30 閉 会



令和2年度 報告遺跡一覧

遺 跡 名	調査 回数	所在地	種別	時代	調査 面積	調査 日程	起因事業
史跡山形城跡 ●		山形市	近世城郭	中世～近世	200 ㎡	6月16日～ 12月18日	史跡山形城跡整備事業
藤木遺跡 ●		上山市	集落跡	縄文・奈良・ 平安	10,586 ㎡	3月16日～ 11月13日	特別養護老人ホーム「蓬仙園」建設
駒籠楯跡 ●	第16次	大石田町	集落跡 館衙跡 城館跡	縄文 古代 中・近世	400 ㎡	10月1日～ 10月30日	保存目的の範囲確認調査
水林下遺跡 ●		遊佐町	集落跡	旧石器・奈良・ 平安・中近世	1,460 ㎡	6月30日～ 11月27日	一般国道7号遊佐象潟道路
杉沢C遺跡 ●		遊佐町	集落跡	縄文・中世・ 近世	2,400 ㎡	8月18日～ 11月20日	農地整備事業
史跡慈恩寺旧境内関連遺跡 (上の寺遺跡) ●	第14次	寒河江市	集落跡 社寺跡	中世・近世	10 ㎡	11月9日～ 11月11日	保存目的の範囲確認調査
史跡館山城跡 ●		米沢市	城館跡	中世・近世	55 ㎡	9月1日～ 10月29日	保存・整備目的の内容確認調査
双葉町遺跡 ●		山形市	集落跡 城館跡	奈良・平安・ 近世	2,097 ㎡	5月7日～ 7月31日	立体駐車場新築工事
長岡南森遺跡 ●	第3次	南陽市	古墳ほか	縄文・弥生・古 墳・平安・中世	245 ㎡	6月8日～ 8月7日	保存目的の内容確認調査
大在家遺跡 ●	第20次	高島町	集落跡	飛鳥・奈良・ 平安	2,359 ㎡	5月28日～ 8月31日	宅地造成事業等
天童古城跡 ●	第4次	天童市	城館跡	中世	78 ㎡	10月1日～ 10月30日	保存目的の範囲確認調査
桐ノ木遺跡 ●	第3次	米沢市	集落跡 古墳	古墳・中世	600 ㎡	5月18日～ 6月26日	市道窪田小東回り線道路改良事業

表紙写真 国宝「縄文の女神」西ノ前遺跡出土

やまがたじょうあと ほんまるごてんあと 史跡山形城跡 本丸御殿跡

—最長 50 mに及ぶ最上氏時代の堀跡—

山 形 市

本丸御殿跡では、平成 29 年度に調査を行い発見した「中央堀跡」の南側延伸部分の調査を行いました。

本丸御殿跡は鳥居氏時代の大改修により盛土され、最上氏時代の山形城の遺構はその下層から発見されました。

中央堀跡は、前回調査で約 30 m の長さでしたが、今回の調査でさらに 20 m 延び、全長約 50 m になります。南端はカクランにより不明瞭ですが、土留め状の石積遺構を発見し、それ以南には延びない事が明らかになりました。

検出した堀跡は、玉石による石垣を伴い、堀底から最上氏時代の黒瓦が出土しました。現在まで金箔瓦の出土はないため、金箔瓦の直前期までに堀跡は埋め立てられた可能性があります。

また、中央堀跡の上層には堀跡を埋め立てた後に作った石敷溝跡が検出されました。底面に扁平玉石を敷きつめ、両岸に 2～3 段の石積み（たいせきそう）を伴う遺構です。堆積層には水の流れた痕跡はなく、通路のような役割が想定されます。

出土遺物は瓦が最も多く、陶磁器等は青磁皿・白磁皿・瀬戸美濃皿・中国青花碗等ですが、埋土中の出土で時期幅があります。堀底から陶磁器はほとんど出土せず、生活空間に隣接していた堀ではないことを物語ります。

（五十嵐貴久）



石敷溝跡の検出状況（南から）



最上氏時代中央堀跡延伸部分（東岸石垣）



石敷溝跡の構築と中央堀跡の埋め立て土

藤木遺跡は、上山市の北部に位置する金谷地区に所在します。蔵王山を源流とする蔵王川によって形成された扇状地の西端部に立地し、調査区付近の地形は西側へ緩やかに傾斜しており、標高は 170 ～ 176 m 程です。南側の台地上には、県内でも珍しい埴輪を伴う県指定史跡の土矢倉古墳群が存在します。

藤木遺跡は、開発に伴う試掘調査によって新たに発見された遺跡で、発掘調査によって縄文時代と奈良・平安時代の遺構や遺物が発見されました。また調査区の全域から河川跡が検出され、かつてはこの地に蔵王川に関連する河川があったことも判明しました。

奈良・平安時代では、^{たてあなじゅうきよ} 竪穴住居跡、^{どこう} 土坑、小穴、溝跡等が確認されていますが、これらの遺構は河川の堆積層の中に構築されたものでした。この河川堆積層の中に土師器や須恵器が多く含まれていることから、本遺跡の上流付近には古代の集落が存在し、洪水等によってそれらの遺物が押し流されてきた状況が推測されます。

調査区の西端となる 5 区では、縄文時代中期前半（^{だいぎ} 大木 7b 式期）の^{はいせき} 配石遺構を伴う遺物包含層（捨て場）が検出され、多量の縄文土器や石器のほか、土偶や三角形土製品等の土製品類が多く出土しました。SS47 配石遺

構の東側部分では人頭大程の大きさの河原石が連結するように綺麗に並べられている状況が確認されたのに対し、西側部分では、東側のように石の並びが明確ではありませんでした。配石の下から土坑等の掘り込みは確認されませんでした。配石遺構の周辺から地面で火を焚いた跡（焼土跡）が複数確認され、祭祀的な空間であった可能性が指摘されます。また、これらの遺構や遺物等は縄文時代に東側（蔵王山側）から流れ込んだ泥流・土石流によって覆われており、土器型式でいえば大木 7b 式期にほぼ限定された遺物群として貴重な資料といえます。

このほか縄文土器では、東北北部に分布域をもつ円筒上層式土器も出土しており、当時の人々の交流の一端を垣間見ることができます。（佐々木竜郎）



調査区全景（北方上空から南を望む）、中央奥の林が土矢倉古墳群



SS47 配石遺構（写真手前が東側）



東北北部に分布域をもつ円筒上層式土器

駒籠楯跡は、大石田町の北西部に位置する駒籠集落の入口近くにあり、野尻川と最上川との合流点近くの右岸側段丘面に立地します。

標高は 66 m 前後で、周囲よりは一段高く、最上川との比高差は約 12 m を測ります。

第 16 次調査で検出された遺構は古代の掘立柱建物跡や竪穴建物跡、土壇、柱穴跡群などの他、縄文時代前期の竪穴建物跡や土壇などです。

大型の掘立柱建物跡は桁行 5 ～ 6 間、梁行 2 間 (5 × 10 ～ 12 m) の東西棟で、四面に廂が付く大型の建物であったと考えられます。また、これより古い時期 (I 期) のもので、桁行 3 間、梁行 2 間 (6.3 m × 4.8 m) 規模の掘立柱建物跡が 1 棟、最終段階Ⅲ期に属すると考えられる 2 間 × 3 間 (7 尺等間) の南北棟が一棟それぞれ見つかっています。

また、調査区東南部で検出された竪穴建物は平成 21 年に県教委が行った調査でその東南辺が検出されていた竪穴と同じものと考えられ、その一边は約 10 m 近い超大型であることが推測されます。このような遺構の配置と在り方から、本遺跡が持つ官衛的性格はさらに補強されたと言えるでしょう。(阿部明彦)



駒籠楯跡 16 次調査区全景 (東から)



駒籠楯跡 16 次調査区空中写真 (上が北)



14 ～ 16 次調査区 合成写真 (上が北)

水林下遺跡は、県の北西端で秋田県との県境に位置する遊佐町^{めが}女鹿地区の鳥海国定公園区域内に所在します。東に鳥海山を望み、西には日本海が広がります。

調査は農道の関係から3地区（A・B・C区）に分けて行いましたが、当初予定に無かった旧石器時代の遺物^{いぶつ}がB区から出土したことから、C区は遺構^{いこう}の確認までにとどめ、本調査は次年度に行うことになりました。

調査で、A区からは溝^{どこう}や土坑、多くの柱穴^{ちゅうけつ}が見つかりました。その中には、直径約30cm^{ちゅうこん}の柱根が出土した約80cm四方の掘り方を測る柱穴もありました。

B区では2層の遺構・遺物面があり、上の層からは、多数の柱穴が見つかり、2間×2

間の建物跡が2棟^{ちゅうれつ}の他、柱列なども確認されました。A区とB区上層からは、平安時代の須恵器^{すえき}の蓋や土師器^{はじき}の坏^{つぎ}、製塩土器と思われる厚手の土器の他、中近世の陶磁器^{とうじき}などが出土していることから、古代から中近世にかけての集落と考えられます。

B区の下層からは旧石器時代の剥片^{はくへん}や小破片のチップなどの石器が上層の遺構面から深さ約30cm下まで出土しました。道具とみられる石器が含まれないことから、時期などは不明ですが、分布状況から来年度の調査区に広がることが分かっているため、次年度の調査で詳細が明らかになると思います。

県内の旧石器時代の遺跡で、海沿いに立地する遺跡は極めて稀であり、本県の旧石器時代を研究するうえで、重要な遺跡であると考えられます。（氏家信行）



海の近くの小高い山の中に遺跡があります。上が日本海です。



80cm四方で深さ1.0mの柱穴。径30cmの柱根が残っていました。



2×2間の掘立柱建物跡。柱穴は径20cm程。



旧石器時代のものと思われる石器（剥片・小破片）。

杉沢C遺跡は、山形県の北西端にあたる遊佐町杉沢地区に位置する縄文時代と近世の集落遺跡です。鳥海山麓の小盆地を流れる月光川支流の熊野川の左岸に立地しており、1953（昭和28）年に石囲いの中から横になった完全な形の土偶が偶然に発見されて有名になった杉沢A遺跡からは、600 mほど東に離れています。また熊野川の対岸には、1978（昭和53）年に国の重要無形民俗文化財に指定された番楽（山伏によって舞われる神楽）「杉沢比山」の舞台となる熊野神社があります。

調査区は熊野川南岸に沿っており、全体がかつての河道跡になっています。河道が埋没する過程において、縄文時代以降の生活の痕跡が認められており、縄文時代では中期中葉（大木8a式）、後期後葉（金剛寺1式）、晩期後半（大洞C2～A式）の土器がまとまって出土しました。中期の土器は調査区南側の黒色土、後期の土器はその北側の褐色土、晩期の土器は熊野川に近い褐色土の中から出土しており、年代が下るに従い川に近づく傾向が認められました。特に晩期は杉沢A遺跡の土偶の時期（大洞C2式）に近く、同遺跡との関わりがあった可能性が考えられます。

近世では、建物の柱穴と思われるピットが多数検出されました。調査区域に鳥海山で修行する山伏の宿坊があったことを示す絵図が残されており、それを裏付ける成果を得ることができました。また近世の井戸跡が検出されました。旧河道の巨大な礫を多く含む土層を掘り込んで構築された木組みの井戸で、中からは箸や曲げ物といった木製品が多数出土しました。宿坊で利用された井戸であったと考えられます。

杉沢C遺跡では、鳥海山麓の自然豊かな地域に展開した縄文時代と近世の人の営みを明らかにすることができました。

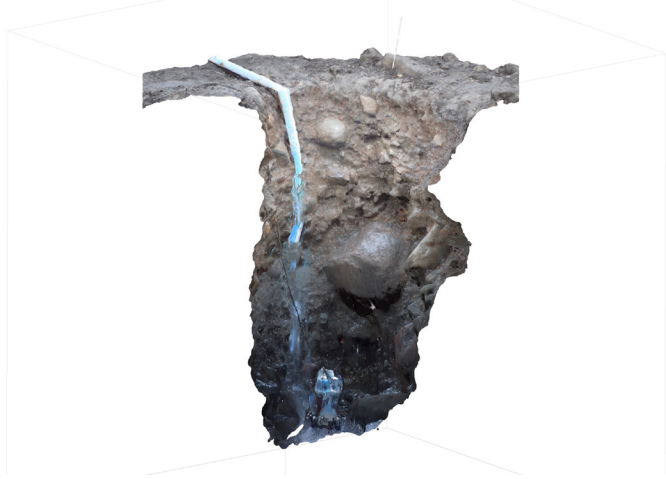
（小林圭一）



多くの遺構が検出されましたが、特に中央付近で近世の柱穴群が集中して検出されました（上が北）。



縄文時代晩期後半の土器が潰れて出土しました。



近世の井戸跡の断面の3D写真です。

史跡慈恩寺旧境内関連遺跡 (上の寺遺跡)

— 慈恩寺の中世が見える —

寒河江市

上の寺遺跡は、慈恩寺に中世期存在した寺院群の跡です。慈恩寺本堂の 500 ～ 600m 東に聞持院跡と伝えられる平場が残り、そこから北東に向かって階段状の平場群が広がります。中世期の慈恩寺を明らかにするため調査を継続し、今回で第 14 次となります。

上の寺遺跡には鎌倉中期に薬師寺が建立されましたが零落し、代わって正応 3 年 (1290) に虚空蔵菩薩を安置する求聞持堂が建てられ、聞持院となりました。薬師寺の薬師三尊十二神将は聞持院で祀っていたようです。伝・聞持院跡の土塁から南方を望むと、寺院の正面を示すかのごとく、白鷹山（虚空蔵山）が真正面に見えます。

中世には、慈恩寺本堂周辺と並んで上の寺地域にも宗教センターが存在していたのです。その後、聞持院も廃れ、江戸時代の初めに薬師寺の薬師三尊十二神将は本堂境内地の薬師堂に移され、聞持院本尊の虚空蔵菩薩は本堂に移されたようです。

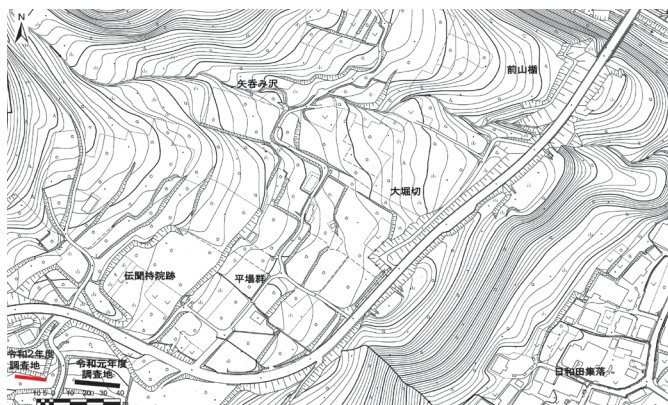
今次の調査は、昨年度に引き続き、上の寺の正面参道を確認するため南側の平場群を調査したものです。昨年度調査地は鬼越坂から聞持院跡に向かう小道の東側でしたが、今次は道を挟んでの西側平場に東西 5 m、幅 1 m

のトレンチ 2 本を縦列に設定し調査しました。

手掘りで掘り進めた結果、表土下 15 ～ 25 cm で地山に達し、地山の黄褐色土を掘りこんだ密度の濃い柱穴群や溝跡を確認しました。特に、西端で検出した 60cm 四方の掘方を持つ柱穴は中央に径 30cm 大の礎石を配するものでした。遺物の出土はほとんどなく、近世陶磁器 1 点を検出したのみです。西側平場に建物群の存在を確信できたことで、正面参道であることがさらに有力となりました。（大宮富善）



聞持院本尊の木造虚空蔵菩薩坐像



調査位置図（伝聞持院跡南側土塁下方の平場）



発掘調査の平場面。表土下約 25cm の地山から密度の濃い掘立柱柱穴群が見つかりました。

史跡館山城跡は、米沢市西部の大字口田沢・館山地内の丘陵上に築城された山城と、それに伴う東館・北館と呼ぶ山麓居館（根小屋）で構成される城館跡です。平成 28 年 3 月 1 日付けで国の史跡となりましたが、この年から米沢市内で大規模な開発事業に伴う緊急発掘調査が相次ぐこととなり、これらの対応で発掘調査等の事業を休止していました。今回の調査は、5 年ぶりに再開したものです。

今年度は、山城と山麓居館を結ぶ北側の通路を確認するため、曲輪Ⅰ北東側の虎口（城の出入口）と通路が想定される場所に調査区（E-1 区）を設定しました。

調査の結果、虎口を想定した幅約 4m の方形の落ち込み（SX51）は、堆積土の状況から廃城後に掘られた遺構であることがわかりました。そこから斜面を下る通路面等も確認されず、この場所には当初想定した通路は無いと判断しました。城に伴う遺構は、曲輪Ⅰ北縁の土塁と北斜面の切岸（人工斜面）を確認しました。土塁は基底部のみ確認され、残存する高さは約 20cm です。切岸は地山（段丘礫層）を削り出し、中段に溝状遺構を伴います。平成 27 年度調査でも同様の遺構を確認しており、曲輪Ⅰ北斜面の中段は、現況では幅の

狭い平坦地（帯曲輪）となっていますが、本来は深さ 40cm 程度の小規模な溝が巡っていたと考えられます。城に伴う遺物は、内耳土鍋・かわらけ片等が出土しています。

E-1 区から約 40m 西側にも幅約 8m の落ち込みがあることから、この場の性格や時期を確認するため E-2 区を設定しました。

調査の結果、落ち込みは後世の遺構であることがわかりましたが、城に伴う遺構として土塁を確認しました。ここでは積土も確認され、残存する高さは約 40cm です。なお、落ち込みに沿うように土塁が付くことから、元々腰曲輪のような施設が存在した可能性があります。

（佐藤公保）



E-2 区 土塁の断割調査状況（東から撮影）



E-1 区 SX51 全景（北から撮影）



E-1 区 切岸と溝状遺構（東から撮影）

双葉町遺跡は、山形市の中心部に位置する古代の集落と中世・近世の山形城跡の複合遺跡です。馬見ヶ崎川が形成する扇状地の扇端に位置しています。扇状地の扇端は地盤が安定しているうえに地下水が高く生活用水が得やすいという利点があるため、周囲には遺跡が点在しています。

古代に属する遺構は、^{いこう} 竪穴住居が3棟検出されました。調査区が狭かったため3棟とも住居全体の一部のみの検出で、カマドも見つかりませんでした。そのうち、1号竪穴住居跡の床面から完形に近い^{はじきかめ} 土師器甕が出土しました。ロクロを使わず体部が丸みを持った甕で、8世紀の奈良時代であると思われますが、あまり類例がないので明確ではありません。2号竪穴住居跡・3号竪穴住居跡からは、床面や床面直下の掘方から土師器や須恵器が出土しました。須恵器の形状などから、これらの竪穴住居も8世紀と考えられます。

山形城に関わる近世の遺構として、竪穴状遺構や土坑が検出されました。竪穴状遺構のST9は、長辺3.1m、短辺2.2mの長方形に掘られた遺構で、16世紀末から17世紀初頭

の瀬戸美濃（現愛知県・岐阜県が産地）の皿が出土しました。このような竪穴状遺構はほかに6棟検出されました。土坑のうちSK2から、17世紀前半の肥前系（現佐賀県が産地）の陶器皿が出土しました。このように、山形城に関する痕跡は江戸時代前半の17世紀が多いのが特徴です。（齋藤 仁）



1号竪穴住居跡出土土師器甕



2号土坑跡出土陶磁器皿



1号竪穴住居跡床面検出状況（南から）

てんどうこじょう まいづるやまじょう しゅかく 天童古城（舞鶴山城）主郭跡

天童市

—天童を一望する山城—

山全体に曲輪くるわと切岸きりぎしが主体の遺構いこうがあり、主郭のある中央郭群ちゅうおうくわんを取り巻いて東郭群、西北郭群、西南郭群等が存在しています。全体規模は東西約1km、南北1.2kmとなり、山形県における中世最大級の山城になります。天童市教育委員会は、主郭跡の発掘調査を継続し、今回で第4次となります。

今回の調査は、以前に検出された弧状に盛土され、その上に柱穴群ちゅうけつぐんがみられる遺構の広がりや、溝状遺構の広がり、東側に検出された柱穴群の広がりから、掘立柱建物ほったてばしらや礎石建物跡そせきの痕跡を確認するために調査部分を拡張しました。

調査の結果、東側において拡張した箇所からは、柱穴群が多く検出され、南北軸に一列に並ぶ柱穴がみられました。しかし、調査、面積の制約から掘立柱建物跡の確認までは至りませんでした。建物があつた可能性は十分にあると考えられます。

また、一般的な城跡の掘立柱建物跡より柱穴の数が少なく、主郭跡には固い岩盤が露出していること、また、愛宕神社には多数の礎石が使用されており、多くはひび割れや赤く焼けた痕跡がみられることから、天童古城の建物跡は礎石で構成されていた可能性があり、

その礎石が愛宕神社の建立の際に転用された可能性も十分に考えられます。

溝状遺構と考えられていた箇所は、溝ではなく土坑どこうであることも判明しました。出土遺物については、青磁せいじ・白磁はくじ・古銭こせん・硯すずり・鉄釘・かわらけなどが検出され、そのうち、西側において拡張した箇所から出土した15世紀後半のものと思われる青磁碗片が、第2次調査時に出土した青磁片と同一個体であることが判明しました。
(菊地研次)



東側柱穴群 南北軸に並ぶ柱穴が確認されました。



西側柱穴群



溝状遺構（土坑）かわらけや青磁片などが出土しました。

桐ノ木遺跡の発掘調査は、昨年度の第1・2次調査に引き続き、今年度は市道建設部の第3次発掘調査を実施しました。

第1・2次調査では、古墳の周溝^{しゅうこう}及び祭祀遺構^{さいし}が検出され、管玉^{くだたま}・丸玉^{まるだま}といった玉類や数多くの土器片が出土しました。また、区画溝^{くわくこう}で囲まれた中世の屋敷地^{いじ}が確認され、内耳土鍋^{ないじ}や漆器^{しつぎ}の椀^{わん}等が出土しました。

今年度実施した第3次調査においても、昨年度と同様、古墳時代と中世の遺構・遺物^{いぶつ}が確認されました。以下、今年度の調査成果について、古墳時代と中世のそれぞれの時代ごとに述べていきます。

古墳時代の遺構としては、調査区北側から河川跡が確認されました。その川底の一角からは、狭い範囲に土器が密集して出土しました。出土位置が特定の範囲に集中しているこ

とから、何らかの祭祀が行われた可能性が考えられ、第1次調査で確認された祭祀遺構との関連が着目されます。年代については、第1・2次調査で確認された遺構・遺物と同時期の6世紀代と推測できます。

中世の遺構としては、掘立柱建物跡^{ほったてばしら}が検出されましたが、調査区が狭く、建物跡の一部分しか確認できなかったため、建物の構造や形状までは判別できませんでした。

以上、桐ノ木遺跡は、2年間に渡る発掘調査によって、古墳時代においては墓域^{ぼいき}や祭祀場として、中世においては集落としてそれぞれ機能していたことが明らかとなりました。

桐ノ木遺跡の発掘調査は今年度で一区切りとなりますが、古墳時代の造墓活動や祭祀、中世の集落構造を考える上で、重要な成果を得ることができました。（佐藤智幸）



調査区全景（上が南）。手前の黒色土が古墳時代の河川跡で、川底から多くの土器が出土しました。



河川跡出土の土器の集合写真です。特徴から、古墳時代後期（6世紀）の土器と推測できます。



河川跡の遺物出土状況です。狭い範囲に土器片が密集しているのが確認できます。



中世の建物跡です。調査区が狭いため、検出されたのは建物の一部のみとなります。

長岡南森遺跡は、南陽市長岡の南森丘陵に立地し、古墳かどうかを含め遺跡の性格と内容把握するため平成30年から確認調査を実施し、今年度はその第3次調査になります。

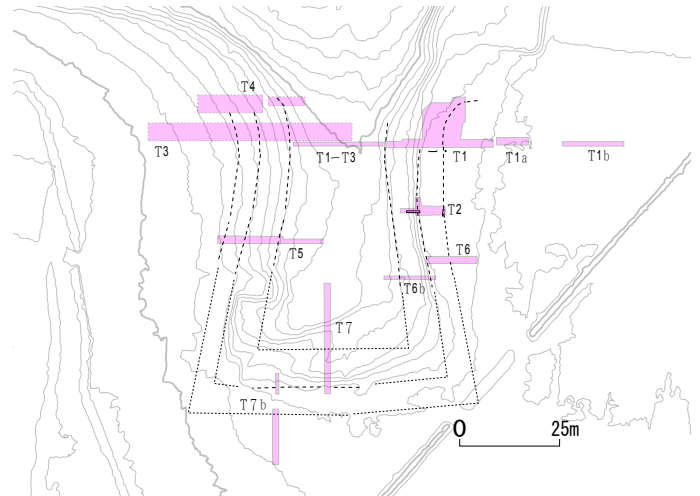
南森丘陵の調査は、古墳で言えば前方部にあたる丘陵北半部と後円部にあたる丘陵南半部に分け、北半部から調査を進めています。

南森丘陵北半部を対象とした調査は今年度で一段落となり、次年度からは南半部の調査に移行する予定になっています。

今年度調査では、7地点にトレンチを設定し、確認調査を実施しました。

第5トレンチで古墳の段築^{だんちく}に相当する三つの段状遺構が確認されたほか、その他のトレンチでも段築に相当する段状遺構が検出されました。これにより前方部に相当する丘陵北半部には、概ね三段の階段状の遺構が巡る可能性が高いことが明らかになりました。

また第6トレンチ、第7bトレンチでは、丘陵の外側に、周溝や土取り跡に相当する可能性のある幅約13mの浅い落ち込みが確認されました。これまでの調査から1段目の段の外側をこの落ち込みが巡っている可能性があると考えられます。



長岡南森遺跡（丘陵北半部）トレンチ位置図

今年度はT1-T3、T4～T7bを調査した

出土遺物は、二重口縁壺^{にじゅうこうえんつぼ}や器台^{きだい}等が複数出土するなど、古墳時代の祭祀^{さいし}に関連するものが主体を占めています。主に4世紀頃のものと考えられます。また攪乱層^{かくらん}からは縄文早期・前期の土器や、縄文草創期とみられる有溝砥石^{ゆうこうといし}等の石器が出土しています。

3か年の調査の結果、南森丘陵北半部では、人工的に造成された段築状の段が巡ること、東西で対称的に造成されていることが把握され、古墳の前方部として見ても大きな矛盾が無いことが確認されました。（斉藤紘輝）



東斜面の第5トレンチで確認された段築に相当する三つの段状遺構



第4トレンチ西壁（くびれ部相当地点）で出土した器台

大在家遺跡は高畠町中心部、高畠小学校の南側に位置しています。飛鳥・奈良・平安時代の複合遺跡で、遺跡の大半が高畑城（中・近世）と重複しています。平成3年度以降、今年度で20次調査となります。

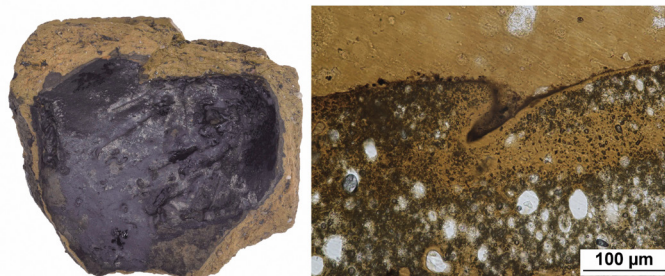
今回の調査では、第18次調査で検出された古代の河川跡と同一の河川跡を検出しました。出土須恵器の特徴から7世紀第4四半期～8世紀前半、8世紀後半～9世紀初頭、9世紀後半以降の大きく3時期にわたる変遷がうかがえます。最下層から出土した漆塗布土器について、塗膜断面を観察したところ、状態の異なる漆が3～4層重なっていました。漆塗膜上面の状態と、一方の土器断面に漆が付着していたことから、破損した土器片を漆工具（パレットか）として再利用していることが推定されます。また、AMS法による放射性炭素年代測定を行ったところ、683-709calA.D.という年代値であり、最下層の想定年代とおおむね一致する結果となりました。

その他に土師器、須恵器、曲物などの木製品、土器に墨で文字を記した墨書土器などが出土しました。また河川跡第IV層から須恵質鈴が出土し、丁寧な作りで珍しい形態です。これまでの調査では須恵器の出土量が土師器を凌駕していましたが、土師器が比較的多く、

良好な資料も出土しました。下層から出土した須恵器について、南東1kmに位置する高安窯跡からの搬入と推定されます。生活に関する遺物が多いことから集落遺跡として周知されていますが、膨大な量の須恵器や「租」関連木簡など一般的な集落跡とは一線を画します。「日本書紀」に登場する「優嗜曇柵」の位置については未だ明らかとなっていない。本調査は古代官衙を考える上で貴重な成果となりました。（鈴木大輔）



河川跡から出土した曲物（左）と須恵質鈴（右）



漆工具用土器の塗膜構造
（株式会社 吉田生物研究所による分析）



調査区全景（西から）手前が検出された河川跡



河川跡第IV層遺物出土状況

メ

山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代		県内の主な遺跡 ● ● : 令和2年度発表遺跡(主要な時代を示します)		山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史			
BC30000年	旧石器時代		上屋地 清水西 越中山 ● 水林下	(飯豊町) (村山市) (鶴岡市) (遊佐町)	弓張平B お仲間林 金谷原 角仁山	(西川町) (西川町) (寒河江市) (大石田町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき 石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人	
BC11000年		縄文時代	草創期	日向洞窟 火箱岩洞窟 大立洞窟	(高畠町) (高畠町) (高畠町)			隆起線文土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれた 土器づくりがはじまる	
			早期	にひやく寺 北原4	(山形市) (村山市)	いるかい 坂ノ上	(尾花沢市) (山形市)	堅穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	農耕牧畜が起こる
			前期	高瀬山 押出	(寒河江市) (高畠町)	小林A 吹浦	(東根市) (遊佐町)	漆を使って文様を描いた土器がつくられる	落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる	トルコ・世界最古の都市 チャタル・ヒュイク成立(約6000年)
			中期	西ノ前 小反 ● 藤木 高瀬山 花沢a	(舟形町) (鮭川村) (上市市) (寒河江市) (米沢市)	中川原C 西海湖 西向 熊ノ前 山居	(新庄市) (村山市) (鶴岡市) (山形市) (西川町)	計画的な大集落があらわれる	関東地方に見塚があらわれる 三内丸山遺跡が繁栄する	とうもろこし栽培のはじまり メキシコ(約5000年)
				後期	北原2 高瀬山 川口	(村山市) (寒河江市) (村山市)	小山崎 かっぱ 砂子田	(遊佐町) (最上町) (天童市)	堅穴住居に複式炉が作られる	
	晩期		宮の前 作野 ● 杉沢C	(村山市) (村山市) (遊佐町)	下叶水 釜淵C 北柳1	(小国町) (真室川町) (山形市)	中国製青銅刀がもたらされる	環状集落が発達する		
AD1年 300年	弥生時代	上竹野 百刈田	(大蔵村) (南陽市)	生石2 庚壇	(酒田市) (南陽市)	米づくりがはじまる 機織りはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 環濠集落の発展 前方後円墳がつくられる 大和の土師器が全国に広まる	光武帝が奴国に 金印を授ける(57年) ポンペイが噴火により埋没(79年) 魏呉蜀三国時代(220年)		
600年 700年 800年	古墳時代	畑田 玉作2 ● 長岡南森 川前2 今塚 中野目Ⅱ ● 桐ノ木 西沼田 矢馳A 物見台 南原 廻り屋	(鶴岡市) (鶴岡市) (南陽市) (山形市) (山形市) (山形市) (米沢市) (天童市) (鶴岡市) (中山町) (高畠町) (白鷹町)	比丘尼平 天神森古墳 稲荷森古墳 寶領塚古墳 菅沢古墳 大之越古墳 お花山古墳群 服部・藤治屋敷 梅ノ木 太夫小屋2・3 百刈田 中里	(米沢市) (川西市) (南陽市) (米沢市) (山形市) (山形市) (山形市) (山形市) (山形市) (山形市) (川西市) (南陽市) (米沢市)	鉄製農具がつかわれた 県内最大の前方後円墳がつくられる 東北最大の円墳がつくられる 小規模な古墳群がつくられる 大規模な集落があらわれる 蜂子皇子・羽黒山・月山を開山(590年)	須恵器がつくられた ササン朝ペルシア全盛(531年) ムハンマド生誕(570年) 隋王朝がおこる(581年)			
		飛鳥時代	● 大在家 安久津古墳群	(高畠町) (高畠町)	羽山古墳 長手古墳	(高畠町) (米沢市)	湯殿山開山(605) 出羽郡が建郡される(708年) 出羽櫓が設けられる(709年) 出羽国が建国される(712年) 出羽櫓が秋田村高清水岡に移転する(733年)	聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年) 平城京に都をうつす(710年) 東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をうつす(784年) 平安京に都をうつす(794年) 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)	マヤ文明絶頂期(600年) 唐王朝がおこる(618年) 李白・杜甫・楊貴妃らが活躍	
	奈良時代	二色根古墳 ● 双葉町 壇山古窯跡群	(南陽市) (山形市) (川西市)	牛森古墳 木和田窯 西町田下	(米沢市) (米沢市) (米沢市)	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年)	将門・純友の乱(935・939年) 藤原氏の全盛(1016年)	宋王朝がおこる(960年) 神聖ローマ帝国の成立(962年)		
		平安時代	野田 ● 駒籠櫓跡 上曾根 清水 馳上 八幡西 八反 蟬田 松橋 中関屋 田向2 沼田2 南口A 山田 川前2 小松原窯	(遊佐町) (大石田町) (酒田市) (村山市) (米沢市) (川西市) (東根市) (村山市) (村山市) (新庄市) (村山市) (村山市) (庄内町) (鶴岡市) (山形市・中山町) (山形市)	城輪柵 俵田 八森 泉森窯 山海窯跡群 大坪 下長橋 興屋川原 行司免 蔵増押切 堀端・趾ノ上 四ツ塚 三条 落衣長者屋敷 今塚 三本木窯	(酒田市) (酒田市) (酒田市) (酒田市) (酒田市) (遊佐町) (遊佐町) (鶴岡市) (鶴岡市) (天童市) (長井市) (河北町) (寒河江市) (寒河江市) (山形市) (山形市)	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年) 荘園の成立	将門・純友の乱(935・939年) 藤原氏の全盛(1016年) 前九年合戦はじまる(1051年) 後三年合戦はじまる(1083年)	カール大帝戴冠(800年) アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる(918年) 宋王朝がおこる(960年) 神聖ローマ帝国の成立(962年) 十字軍の時代始まる(1096年)	
	鎌倉時代		八幡一 大橋 上の寺 執行坂窯	(川西市) (遊佐町) (寒河江市) (鶴岡市)	長表 永源寺 七日台 蓮華寺	(山形市) (天童市) (鶴岡市) (鶴岡市)	斯波兼頼が山形へ入部(1356年)	鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	モンゴル帝国樹立(1206年) マグナカルタ制定(1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる(1337年) 明王朝がおこる(1368年)	
	1400年	室町時代	柳沢A 小田島城 八反 藤島城	(鶴岡市) (東根市) (東根市) (鶴岡市)	高松Ⅱ 蔵増押切 安中坊 館山北館	(寒河江市) (天童市) (西川町) (米沢市)	最上義光が最上家第11代当主となる(1570年) 義光の娘・駒姫処刑される(1595年) 出羽合戦(長谷堂合戦1600年)	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	ルネサンス全盛 マゼラン世界一周(1522年) ガリレオが活躍(1564年)	
1500年	安時・桃山		● 天童古城 ● 左沢櫓山城 ● 山形城 ● 館山城	(天童市) (大江町) (山形市) (米沢市)	大宝寺城 白鳥館 米沢城 亀ヶ崎城	(鶴岡市) (村山市) (米沢市) (酒田市)			東インド会社設立(1602年)	
1600年	江戸時代	新庄城 山形城三の丸 羽羽街道 洪江 八幡西	(新庄市) (山形市) (上市市) (山形市) (川西市)	鶴ヶ岡城 三条 南台 飛泉寺跡 坂ノ上	(鶴岡市) (寒河江市) (長井市) (小国町) (山形市)	最上義光没する(1614年) 最上氏改易(1622年) 上杉鷹山、米沢藩藩主に(1767年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)	清王朝がおこる(1636年) アメリカ独立(1776年) フランス革命(1789年) ナポレオン、フランス皇帝に即位(1804年) リンカーンが活躍(1861年)		